

『R246 SOTRY』作品紹介

「R246」－東京都心から西に向かう1本の道－通称青山通り。流行発信の中心。その1本の道を巡って、6人のクリエイターたちの次世代の若者たちに向けた熱いメッセージであり、若者たちが生きていくための道標－映画を作った。「ショートショート フィルムフェスティバル & アジア 2008」話題賞受賞！



浅野忠信 監督・主演作品「224466」

～映画監督の青山真治が脚本を担当。出演：加瀬亮、大森絢音～

R246周辺を徘徊する、アヤしい老人・虎吉と幼い少女・シドミ。2人の前に、突然上半身裸の男が現れた。ロックンロール星からやってきたという、彼の名は246。彼は身体の一部であるドラムキットをなくしたことにより、身体が衰弱。故郷の星にも帰れないというのだ。虎吉とシドミは、246を助けるために、彼がなくなったドラムキットを探す旅に出かける。



中村獅童 監督・主演作品「JIRO」伝説のYO・NA・O・SHI

～脚本：河原雅彦 出演：的場浩司、大杉漣～

江戸時代、森の石松は、次郎長親分から21世紀の若者は、246号線が清水に繋がっていることを知らないというのだ。そればかりか21世紀には義理も、人情も、仁義も、ロックンロールもない。そんな、ねえねえづくしの未来の東京に、石松は“世直し”に行くことを命じられる。石松は恋人のおふみをキャデラック型のタイムマシンに乗せ、21世紀の東京へと向かう。



須藤元気 監督・主演作品「ありふれた帰省」

～格闘技のアスリート須藤元気がメガホンをとった。津田寛治共演～

R246で、交通量調査員の近藤、大木、田丸、そして井上。井上は、この街に来て、離れ離れになった恋人を探すために、交通量調査をしているというのだ。3人は彼に協力するが、見つからないまま、突然 井上が「実家に帰ることになった」と言い出す。



VERBAL(m-flo)監督作品「DEAD NOISE」

～VERBAL(m-flo)監督のドキュメンタリー～

1970年代、世界を席巻したHIP HOP。だが、時代は移り変わり、日本人のHIP HOP熱は次第に失われてしまった。m-floのVERBAL自身が、日本のHIP HOP界をリードしてきたアーティストたちにインタビュー。今までインタビューアが聞きたくても聞けなかった数々の疑問をぶつけ「日本のHIP HOP界は、今後どうなるのか？」というテーマの核心に迫っていく…。



ILMARI(RIP SLYME)監督作品「CLUB 246」

～クラブでの恋の駆け引きを描く意欲作。出演：石田卓也、HARU～

レコード会社にアルバイト勤務する、内気なメガネ男子・ケイスケは、ひょんなことから人気のクラブに行く羽目に。そこは今まで経験したことのない世界だった。喧騒の中、同僚のサクラの姿が。社内でアイドル的な存在で、ケイスケも密かに憧れている。そんな彼女が涙をみせ…ケイスケはサクラを追いかけた。



ユースケ・サンタマリア 監督・主演作品「弁当夫婦」

～永作博美共演のハートフルストーリー～

朝も早くから、腕をふるって弁当を作る女。後から起きて、あまり会話を交わさない男。2人はともに37歳。昼休み。公園のベンチで、女は男が来るのを待ち、一緒にお手製の弁当を食べる。毎日、同じことの繰り返し。慣れとともに、以前より少なくなっていく日々のコミュニケーション。ある日の午前、女が“金魚屋カフェ”にやってきた。「ちょっと話をしよう」と言いながら…。